

NPO法人メイアイヘルプユー会報

「福祉サービス第三者評価・評価調査者研修会」第1回を開催しました。

代表理事 新津ふみ子

9月5日、2年ほど前からの念願であった、全国第三者評価機関連絡協議会(仮称)主催の研修会が開催できました。全国の第三者評価機関から65人の評価調査者が集まり、情報交換をしました。

研修会の内容ですが、まず、評価の先輩である病院機能評価機構の取り組みについて講義をしていただきました。特に第三者評価制度をうまく機能させるためには、サーベイヤー(評価調査者)の質の維持・向上が基本であり、そのための研修システム・内容や評価機関との関係づくりについて具体的な話がありました。私は、サーベイヤーに対する情報提供として、サーベイヤー専用のホームページがあること、毎月サーベイヤー通信を発行していることなどに関心を持ちました。病院機能評価のサーベイヤーの多くは、病院で現職として活動している人は少ないようで、退職した人たちです。そうすると最新の医療情報、制度の変更などに触れる機会は、自然に少なくなると思われま

す。通信などは、この欠点をサポートしていること、評価機構(機関)の方針や考え方などを周知徹底させる機会として活用していること、そして組織(評価機構)に対する所属意識を醸成する対策であることなど、組織としての人材育成には欠かせないことであると思いました。当法人の会報は、年3~4回の発行です。また調査員研修は定期的には年2回です。その他に自主勉強会を年3~4回実施していますが、参加できる人は限られています。会員や調査員とのつながりを深める機会を増やさな

ければいけないと反省をさせられました。来年度の事業計画に入れ込む方向で検討したいと思えます。

次に、評価実績の多い評価機関4事業所から、その取り組み状況について報告をいただきました。どの評価機関も評価者の人材育成を課題としていました。まず、評価機関としてどの分野の事業(高齢、保育、障害など)を中心に評価をするのか、そのための人材としてどのような経験や資質、能力が必要かを明らかにし、リクルートをしています。しかし、第三者評価では、調査員になるための研修は4日から6日程度であり、とにかくこれまでの経験を生かすことが絶対条件ともいえ、これで一人前になれるかどうかが決まるともいえます。報告によると、リクルートの重要性はわかりつつ、必ずしも思い通りにはいっていないことが悩みであるという共通の状況がありました。当法人としても検討課題です。



そして最後に、12グループに分かれ、所属する評価機関の取り組み状況について情報交換をしました。北海道から沖縄までの40の評価機関が参加していました。第三者評価の推進は、都道府県

として推進組織をつくり、評価の進め方などについては独自性を発揮して活動をするという体制です。従って、当然、都道府県により差がありました。ちなみに、施設運営補助費を出す条件として、第三者評価を義務づけている、すなわち評価受審費に補助金を出している東京都とその他の道府県とでは、評価に対する事業者の意識や広告・営業など評価実績を上げるための取り組みなどにおいて、その差は大きいと思われました。

全国レベルでは、初めての研修・交流会であり、1時間の情報交換では少ないと思いました。しかし、お互いの学びは大きく、今後も全国レベルの交流の機会、研修の機会を設けてほしいという要望がたくさん寄せられました。この会の呼びかけ人たちと検討し、ぜひ継続したいと思えます。

この会が盛会に終わることができたのは、共催である全国社会福祉協議会の全面的な支援があつたからです。この場を借りて厚く感謝申し上げます。また、当法人の事務局、会員の手伝いがあり実施できました。本当にご苦労様でした。

なお、9月5日は、午後から「メイアイヘルプユー10周年記念セミナー」を開催しました。この内容については、事務局長が報告します。

最近、頓に思います。改善する点があるということは、先があるということであると。これからの10年、‘前へ、前へ’進んでまいります。

謝礼と御報告

お陰様でメイアイヘルプユー10周年記念セミナーは95人が集い、盛大に開催することができました。当日参加できなかった会員の皆様に記念セミナーの様子を少しご紹介いたします。

1. 記念講演：「福祉サービス利用者の権利に関する現代的課題～歴史的変遷を踏まえて」
講師：若穂井 透氏
(日本社会事業大学教授、弁護士)
2. 活動報告：「宮崎県高原町における介護保険適正化事業に対する取り組み」
講師：中村 みどり氏
(地域包括支援センター 保健師)
3. シンポジウム：
「第三者評価から見える福祉サービス事業者が取り組んでいる利用者本位の活動とは」
シンポジスト：
加藤 浩之氏
(株式会社 川原総合経営センター)
渡辺 真紀氏
(株式会社 日本生活介護)
要 厚子氏
(特定非営利活動法人 メイアイヘルプユー)
コーディネーター：新津 ふみ子
(特定非営利活動法人 メイアイヘルプユー)



事務局報告

若穂井先生は、我が国の福祉サービスの歴史を振り返り、1)利用者の権利・人権の種類・社会福祉の法制、2)福祉サービス利用方式と利用者の権利、3)措置から契約への転換と利用者の権利擁護、4)利用者の権利に関する現代的課題として締めくくられました。法の捉え方と現実的な課題の講義は、久しぶりに学生気分になれたメイアイらしい格調高い記念講演でした。

中村さんの活動報告は、非常に面白かったです。高原町(自治体)の保健師として介護保険行政全般と地域包括支援事業(地域包括支援センターを含む)を担当するなかで、介護保険適正化事業の一つとして介護支援専門員の能力の向上を課題として取り組んだ成果を報告してくださいました。

なお、この事業はメイアイヘルプユーが委託を受けており、代表の新津と評価部長の要、会員の高野さんが関わっております。

余談ですが、この報告の最後に中村さんから「NHKの番組で『鶴瓶の家族に乾杯』を知っていますか？高原町が10月6日と12日に放映されます。」と紹介されました。それほど天孫降臨や高千穂連峰、また人口より牛の頭数のほうが多いなどで画になる町ということですね。

シンポジウムは、実際に第三者評価を実施した3つの評価機関から「利用者本位とは何かを考える」について報告がありました。3名のシンポジストからの報告を聞き、評価する側の力量がますます問われる時代になっていると感じました。だからこそ「事業者から役に立った」と受け止めてもらえる評価について改めて考えさせられました。

嵐のような準備期間を経て、10周年記念を終え

ることができました。その記念セミナーで参加者の皆様にお渡しした「記念誌」を同封いたします。この10年の歩みを是非ともご覧ください。正直な感想を恥ずかしながら少し…。我が国に沢山あるNPO法人の中で10周年を迎えられるのはどの位あるのか、そしてこんな立派な記念誌を出版できるのは、さらに少ないのではないかとと思います。

記念誌の作成については、たくさんの皆様に短い締め切り期間の中で本当に無理なお願いを聞いていただきました。また、素人集団で思いばかりが先行する私たちの「予算は少しだけでも立派な記念誌にしたい」という、無謀な願いに辛抱強くお付き合いくださった学研の鈴木さんとゆう書房の牧野さんにお礼と感謝を申し上げます。

最後に会員の皆様へ。代表は20周年、30周年を考えていると、半ば本気な顔で申しております。「だって、30周年と言ったって、まだ私たち80歳だよ」皆様どう思いますか？これからどうぞよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

2009.10.7 事務局長 鳥海房枝

自主勉強会のお知らせ

【開催日時】

2009年11月17日(火) 18:30~20:00

【場所】メイアイヘルプユー事務所

【テーマ】

「ニュージーランドのリタイアメントビレッジにおける第三者評価の実際」

「ニュージーランドにおけるコーティネーション(ケアマネジメント)の特徴」

【講師】新津ふみ子

【参加費】会員500円、非会員1,000円

【申込締め切り】2009年11月13日(金)

※勉強会終了後、懇親会をします。

(会費1,000円)

事務局報告



メイアイヘルプユウのホームページを
リニューアルしました！

◎メイアイの活動をより広く、分かりやすく！

◎ホームページアドレスは変わっていません。

◎是非、アクセスしてご覧ください！
ホームページのご意見、ご感想など、お待ちしております。

メイアイヘルプユウ 定時総会のお知らせ

【開催日時】

2009年11月27日(金) 18:00～

【場所】

メイアイヘルプユウ事務所

※詳細は後日、ご連絡いたします。

The screenshot shows the homepage of the Meiai Help You website. At the top, it identifies itself as a '特定非営利活動法人 (NPO法人)'. The main navigation bar includes links for 'About Us', '福祉サービスの第三者評価', 'コンサルティング', '研修', '調査研究', and '会員の皆様へ'. The central content area features a banner with the text '福祉現場を応援します。' and a description of their activities. Below this, there are sections for 'News' with two recent updates, and a sidebar with a list of navigation links. The footer contains contact information and a copyright notice.

□ 編集後記 □

今回の会報は、主に10周年記念企画とプロの手によってリニューアルしたホームページのトップページをお届けします。設立11年目に入るメイアイヘルプユウです。それにあわせて会報も充実させたいと編集委員として考えております。

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-31-9 シーバード五反田401
TEL:03-3494-9033 FAX:03-3494-9032 E-mailアドレス: meiai@smile.ocn.ne.jp
HPアドレス : www12.ocn.ne.jp/~meiai

会員の活動報告

「手を通して伝わるケアの心」

神奈川県 小林邦代

手当ての意味、「手を当てて症状を和らげる」意味があると高野山のある高名なお坊さんの話があります。確かに子どもがおなか痛いといえば母親はおなかに手を当てる。そうすると子供も少しほっとした表情になることを、母親をしてきた私も経験があります。

手を通して心配する気持ち、良くなる事を願う気持ちが相手に伝わることで、苦痛が少し和らぎ表情が良くなると思われれます。

「手からあなたの気持ちが伝わります」と患者さんに言われて病院をやめ、訪問看護の道を歩み始めたのは今から17年前でした。

総合病院内科病棟に勤務していた頃、子供はまだ小学校低学年でした。ある日、脳梗塞で緊急入院してきた社会的立場のある男の患者さんが、尿失禁して困っているところに検温に行った私は、看護師として当たり前の行為として肌を温かいタオルで拭き、寝衣、シーツ交換を行いました。そうして3日後に再び同じことを行うことになったのでした。すべてがさっぱりしたところで、その方が「あなたの手は違いますね」と言葉をかけてきました。それから1週間後、今度はがんで余命1ヶ月もない女の患者さんに、体位交換してほしいと依頼され体位交換を行いました。そのとき患者さんから「あなたの手は違いますね」と男性患者さんとまったく同じ言葉が言われたので驚きました。どうしてそう思うのかと聞いてみると「若い看護婦さんは、私を芋でも転がすように体の向きを変えるのです」との返事でした。ふと考えてみると、私は子どもを残して死んでいくのはさぞ辛いだろうと思いながら、体位交換していたように思います。男性の患者さんの時には、私の夫がこのような状態になったら、私は困り果てるだろうし、辛いだろうと考えながらケアを行ったように思います。ケアを行う手を通して、気持ちが伝わることを感じました。そのとき思いました。病院はもうやめよう。もっとベッドサイドに立てる職場で働こうと。私も若い看護婦さんも同じような業務を行っていたことは否定できなかったからです。

訪問看護か？ホスピスか？とどの方向に進むかと悩みましたが、東京都立神経病院で訪問看護の研修を受けたとき、看護師が訪問することを待ち望んでいた患者さん方の笑顔に出会って、訪問看護の道に進むことを決めました。平成5年1月横浜市医師会で神奈川県での第1号訪問看護ステーションの設立準備委員となり、平成5年6月に横浜市港北区で神奈川県で最初の訪問看護ステーションが開設されました。次に、13年間管理者を務めた横浜市中区医師会訪問看護ステーションを開設したのでした。

その後、53歳になったら、自然環境の多いところで少しのんびりと仕事をしたいと思い、小田原に住居を移し、職場は介護老人保健施設に勤務することになりましたが、のんびりどころではなく、毎日あくせくと仕事をしていますが、手を通して伝わる気持ちは大切に仕事をしています。しかし、私に気持ちよりさらに大きな温かい気持ちで包んでくれる認知症の利用者の方々に感謝するとともに、笑顔がかわいく見えます。

私はいいい仕事にめぐりあった自分の人生に感謝しています。

たくさんのいい仲間に出会って、仕事ができたことも感謝です。

今年の5月12日、神奈川県看護賞を受賞しました。授賞式には、79歳になる母にも参加してもらいました。平成21年2月27日に他界した父が存命であったなら、どんなに喜んでくれたらだろうと思います。

看護師として、あと何年現役でいるか今は未定ですが、何時のときも手から伝わるケアの気持ちを大切にしていきたいと思っています。